

実物人体標本を中心に展示した企画展示の開催報告 ～平成13年度企画展「人体」より～

上田耕三*・進悦子**・久松洋二**

A report of showing the human body's specimen on special exhibition "the Human Body"
Kozo Ueda, Etsuko Shin, Yoji Hisamatsu

The Ehime Prefectural Science Museum has held the special exhibition "the Human Body" this summer for 43 days from July 14th through August 31th. The purpose of the exhibition was to provide visitors with opportunities to understand and experience the importance of life, the dangers of diseases and how splendid to be healthy. And at the same time through the exhibition we wanted to inspire visitors to reconsider the importance of their own bodies.

One of the features of this exhibition was showing the human bodies, "PLASTINATION". To exhibit plastinations was the first attempt in Shikoku and also the first attempt in Japan to be planned and sponsored by a museum itself. We decided to exhibit authentic human specimen because we believed only real human body could have the effect to make viewers understand the human body's mysterious complexity and precision.

Thanks to the support and cooperation with the concerned people of various medical institutions and corporations, this special exhibition was successfully realized. The exhibition won popularity and drew as many as 33,000 visitors during the exhibition period. According to the survey we made through questionnaires, about 80% of all visitors approved showing plastination in the exhibition.

はじめに

愛媛県総合科学博物館では平成13年度夏に企画展「人体」を開催した。ヒトの体のしくみと病気について実物の人体標本を中心とした展示で構成した。自分の身体の内部はどうなっているのか。だれもが一度といわず考える「生命」について、詳しく正確に答えたい。身体の仕組みとその精巧さ、病の苦しみと姿、生命誕生のすばらしさをとおして「生きる」すばらしさを再認識してもらいたい。健康について関心が高まっている現在に、もっと自分の身体について正しい姿を知って欲しい、身体を傷つける無益さを知って欲しい願いからこの企画展を開催した。

実物の人体標本を博物館施設で展示することは多くの課題を克服する必要がある。そしてそのためには医学関係者の協力が必要不可欠である。資料の所在もさることながら、人体と医学・医療、そして標本に対する医学者の意識、考え方に触れ、見学者の心の動きをともに考えながら展示を作り上げなければならないからである。演

出本意の構成や不親切な解説で見学者に無意味な感情や不正確な知識を与えてはいけない。なにより身体を提供した献体者の精神をけがすことはできない。従来の展示では発生しない視点が、生命を扱う展示には生じる。幸運にも当館は多くの医学関係者に展示趣旨を理解していただき、多大なる協力を得ることができた。その結果、博物館が克服すべき多くの問題を乗り越え、企画展「人体」を開催することができた。展示内容は、多くの来館者や各関係者に評価していただいた。

当館の企画展示は、例年夏休み中に開催することもあり、子どもを対象とした展示内容が主になる。企画展「人体」は標本を中心に医学や健康に関する展示をするため、子どもにとっての来館動機が弱くなることが懸念された。そのため、家族連れも楽しめるように多くの体験展示も設置したが、成人層の入館者が目立つ結果となった。しかし、子どもにヒトの体を詳しく説明する親の姿も多く、貴重な資料をとおして高い教育効果が得られたのではないかと考えている。

この報告書では、実物人体標本を中心とした人体の企画展示を行うまでの経過、開催するにあたっての留意点と当館がとった対策、開催の結果、およびアンケートによる見学者の人体標本に関する意識調査の集計結果を報告する。

* 愛媛県総合科学博物館 学芸課長

Ehime Pref. Science Museum

** 愛媛県総合科学博物館 学芸課 科学技術研究科

Dept. of Science and Technology Ehime Pref. Science Museum

「人体」展の出発点

展示を担当する学芸課に属する科学技術研究科では、理工分野以外にも数学や生命も担当している。毎年の夏休みに行われる大きな企画展示を3年ごとに科学技術研究科が企画する。企画展「人体」は3年間の準備期間がとられた。企画は平成10年8月の末の科内会議に始まった。脳死問題や臓器移植について語られ、健康についての関心が高まっていた当時、常設展示で生命を取り扱う「生のゾーン」だけでは十分に情報を発信できないもどかしさもあり、ヒトの体と健康について展示する企画案が多く提出された。その中で決められた担当者の熱意により、ヒトの体を「プラスティネーション」と呼ばれる実物の人体に含まれる水分を樹脂に置換した標本により解説するという基本方針がつけられた。科学技術研究科には、医学や保健といったヒトの生命と活動を専門とする学芸員がいない。そのため、ヒトの標本を展示することの意味に、当時は全く気づいていなかった。しかし、この向こう見ずな挑戦は、人体標本を展示する意識が変わりつつある時流に乗り¹⁾²⁾³⁾⁴⁾、われわれの企画に我慢強く耳を傾け、指導され協力いただいた多数の医学関係者のおかげで成功するに至った。結果的に、地方の博物館単独の企画で実物人体標本を中心に構成された初めての展示になった。

標本借用までの経過

実物人体標本の展示についての館内の意欲は決して高くはなく、思うように理解が得られなかった。1995年に展示され、1996年に全国を巡回したプラスティネーション標本はすでにドイツに返却されていた。インターネットでプラスティネーション標本を公開していた東京大学総合研究博物館からは、諸事情によりプラスティネーション標本の協力を受けられなかった。人体標本を通常の資料借用と同レベルで考えていたことが話を進めること、深めることができない最大の理由であることに気づくまで、さらに1年の歳月がかかった。

一部の特殊な博物館を除き、一般対象の博物館施設では、人体の実物標本は常設展示されていない。実物人体標本が引き起こす、死や死体についての感情論、来館者が抱く標本のプライバシーについての感情や興味への対処、博物館施設の倫理的配慮を来館者に伝える方法論といった現実的な問題を克服することが難しいことに起因する。もし展示して、たとえばただ興味本位ではやしたてられるといったような不本意な結果となったとき、学芸や博物館の問題でなくなることを、すなわち献体者やそのご遺族、「献体の精神」を理解し支えているすべての人々へ迷惑がかかることを考える必要がある。人体標本

を展示することは、未だ一般的には完全に受け入れられていない。学芸として展示すべきとする意識は高くとも、機が熟するのを待つ必要がある。実物人体標本の展示について、われわれが感じ取った一般的な学芸員の意識である。

国内でプラスティネーションによる実物人体標本が広く展示されたのは1995年のことである。日本解剖学会創立100周年を記念して、日本解剖学会主導のもと、東京大学総合研究博物館、仙台市科学館、国立科学博物館で特別展示が行われた。中でも国立科学博物館で行われた「人体の世界」展が最も大きく世間に公開された。反響も大きく45万人の見学者が訪れた。その後、1996年に全国を巡回した「人体の不思議」展では、大きな反響を呼ぶも厳しい批判の対象ともなった。実物人体標本を展示し、広く公開することについて、十分に吟味する必要性を再認識することとなった。不必要に過度な演出と広報は、展示の意味を感じにくい見せ物的な意味合いを帯び、「献体の精神」を踏みにじる結果を招くのである。

平成11年度初頭に最初の転機が訪れた。当館の運営委員（現在は博物館協議委員）の一人に愛媛大学医学部教授の植田規史氏が選出された。以後、企画展「人体」は愛媛大学医学部の協力を受けることができ、展示内容の整合性、展示解説の充実が得られ、そして何より「医学・医療」についての学芸員の意識が大きく変わった。

次の転機は、名古屋市科学館の学芸員である尾坂知江子氏、順天堂大学医学部の坂井建雄氏との出会いである。両氏は実物人体標本を展示することについての専門家である。調査研究はもとより、その幅広い普及活動がよく知られている。特に坂井氏は、われわれの話にも熱心に耳を傾け、どの視点が欠落しているかの確に指摘くださった。このころから、献体者やそのご遺族に思いを巡らせ、標本を見る人の心の動きを考えつく限り想像した。まず準備すべきことは、現実的な問題を実際に対処するノウハウではなく、実物人体標本が生みだすさまざまな感情を受け止める姿勢であることを知った。また、坂井氏らの報告⁵⁾により、解剖学者の標本公開についての意識と慎重な議論、そして現在の動向に合わせた問題提起に触れることができた。

最後の転機は平成12年に開催された東京女子医科大学の特別展および公開講座であった。特別展は器官ごとに分類された長期のシリーズであった。そこには、病に冒された内臓の姿が多数のプラスティネーション標本として紹介されていた。病気でさまざまな姿に変わってしまった器官を見せる標本は、病気を説明する説得力のある科学の表現であり、生命について心を揺さぶる貴重な資料であった。公開講座の受講が資料借用の交渉を始めるための条件だった。ここでも、医学者の生命に対峙するために必要と考える姿勢を知ることとなった。医学を展

示することは、倫理的な問題と大きく関係しているのである。これらの出来事をおして、企画展「人体」の基本コンセプトはより深く掘り下げることができた。館内の理解が得られ、各部署のバックアップ体制が整い始めた。展示構成、展示手法は複雑になっていったが、根底にあるテーマはより単純に昇華していった。「生きる」を展示する。これが当館の行ったことである。この企画展に関して当館が出会った方々とその時に頂いた助言については、表1に時系列としてまとめる。

標本展示のための方策

献体とは医学・歯学の解剖学的な教育研究のために自分の遺体を提供することである。そして献体者の尊い精神が医学・歯学生に人体の知識と人間尊厳の存在を教え

る。標本は献体者があって初めて存在する。博物館においても実物標本を展示するならば、まず博物館の職員自身が献体の精神を正しく理解しなくてはならない。その上で、見学する人に対して最大限その精神を伝える努力をする必要がある。一方で、実物人体標本を見学する人の考え方はさまざまであり、見ることによってさまざまな感情や意見が生まれる。その時、博物館として「本物の持つ直感的な説得力」を信じ、ヒトの体の正しいイメージを伝えるために必要不可欠であることを、どのような場面でも誠実に説明できる体制をとらなければならない。当館は多くの医学関係者や生命関係の学芸員と交流することで、このような努力を最大限行う姿勢を整えることができた。

実際に当館がとった行動は大きく2つに分けることができる。1つは当館の意志を規格化すること。もうひと

表1 実物人体標本借用までの時系列

時 期	進 捗	状 況
平成11年 6月	前愛媛大学医学部長植田教授が愛媛県総合科学博物館運営委員に就任 人体展の指導を依頼	
10月	植田教授に、平成13年度企画展「人体」の展示構想について説明 愛媛大学医学部解剖学第一講座松田教授の指導を受けるように助言される 愛媛大学医学部解剖学第一講座松田教授の指導 実物人体標本展示に関する倫理問題・博物館の受け入れ態勢について指導 プラスチック標本の展示等については順天堂大学解剖学講座坂井教授の指導が不可欠であるとの助言	
11月	順天堂大学坂井教授の指導 実物人体標本の展示方法・条件などについて指導 埼玉医科大学解剖学教室金子・穂田教授、村田講師にプラスチック標本の借用について打診 博物館への貸出例はないが、最終的には学長の判断とのこと	
12月	名古屋市科学館尾坂学芸員より、博物館展示の諸問題について指導を受ける 名古屋大学解剖学教室小林教授（尾坂学芸員の紹介）によるプラスチック標本展示について指導	
平成12年 2月	企画展調査のため訪れた吉岡彌生記念館において、病理プラスチック標本が展示されていた 展示を担当した東京女子医科大学病理学第一講座小林教授は実物人体標本の展示に前向きな姿勢	
4月	吉岡彌生記念館にて展示更新の内容視察と特別講座聴講 橋本館長、小林教授に企画展示の概要説明 病理プラスチック標本の借用について小林教授了承 （実物人体標本の展示が初めて可能となった）	
6月	愛媛大学植田教授、松田教授に実物標本中心の人体展示案を説明し、問題の指摘、改善の指導を受ける 松田教授のご尽力により、病理学会員・解剖学会員を中心に人体展の協力委員会がつけられ、企画展開催中の医学関係者の常駐が可能となった 愛媛大学医学部長に愛媛大学医学部の人体展への協力を依頼、了承される 人体展開催中の教職員の派遣についても了承される	
7月	愛媛大学医学部の協力体制・実物標本の展示に関する倫理面の整備を元に標本の借用交渉 東京女子医科大学 館長とともに協力依頼、プラスチック標本に借用について確認 埼玉医科大学 プラスチック標本の借用について、金子教授のご尽力により東学長に面会、借用を許可される 順天堂大学 プラスチック標本展示のための体制・環境設備が整ったとして借用を許可される	

つは、その意志に基づいて対外的に表現することである。そのどちらも多くの関係者に指導を受け、協力を頂くことで実現できたものである。

意志の規格化とは以下に続く内容を意味する。各職員が自分の理解に基づかず漠然とした説明を行った結果、言葉が足りないことや話の前提になる知識を考えないことなどで無用な誤解や混乱を引き起こすことが予測される。その事態は避けなければならない。そのために考え方のガイドラインを作成した。具体的には実物人体標本についての考え方、意義、必要性、倫理についてまとめ、展示その他の表現方法の基本方針をまとめた。

企画展「人体」に関係するすべての部署にガイドラインが配布され、その説明が行われた。この作業により、各部署が業務を行う際、学芸課とは独立して必要な説明を行うことが可能となり、作業能率も向上した。また、企画展開催直前に愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授小林直人氏のご厚意によって、館内職員全員を対象に実物人体標本及びその展示についての研修が実現した。

対外的な表現は広報、展示、対面の3つに細かく分けられる。この表現において、実物人体標本の展示を見た印象の違いを考慮した。即ち、器官や病理標本と全身標本から受ける印象の違いである。前者の大部分は標本の表す意味または内容を知ることによって強い印象を受けることに對し、後者は一目見たときから強い印象を受ける。全身標本はそれが表現する内容を正しく説明することではじめて、他の標本と同様な教育的効果が発揮されるのである。必然的にこの2者には別扱いの表現方法を要することになる。表現方法は標本展示全体のこととその中でも全身標本だけ注目したもの、また展示室全体である館の意志を説明したものが混在している。具体的な対応を順を追って説明する。

(1) 広報

広報は印刷物その他の情報発信以外にも、館内サインや案内といった博物館の呼びかけ全体を意味する。中心となる方針は、まず「実物人体標本が展示されている」ことを明言すること、企画展示室には「見学希望者が自分の意志を持って入場すること」を選択させることである。その際に、博物館の意志、即ち「本物の持つ力を借りて人体を説明する」、そしてそれは「来館者のために必要である」ことを確信していることを、できるだけ誠実に説明する。求める人間に必要な情報を提供する姿勢を当館は選択したのである。もちろん、見学に来た人の目的まで管理する権利も必要もないが、見ることを意識すること自体に教育効果があるため、たとえ医学に係わる意識と知識がなくても、少しでも平等に当館の目的を理解する準備ができることを期待したのである。具体的には次の9点で行った。

・ポスター、チラシ (写真1, 2, 3)

今回、国内でも貴重な標本を展示するために、より多くの人に関心を持ってもらいたい気持ちは大きいのだが、標本をただの興味本位の見せ物にするわけにはいかない。全身人体標本についての記述はむしろ他の標本より控えめに行った。ポスター、チラシとも全面には人体を想像させるイラストを据え、各展示コーナーの説明のために、標本の写真を小さく掲載した。特にチラシは手にとって長く見る性質上、紙面の多くを割いて、企画展「人体」の展示テーマについての文章を掲載した。

・博物館だより (写真4)

毎年6月発行の博物館だよりには企画展示の予告を2頁にわたり掲載している。企画展「人体」についても行



写真1 企画展「人体」広報用ポスター。標本の写真は大きく使わずにイラストで構成した。



写真2 広報用チラシ表面。手にとってじっくり読むことのできるチラシには、企画展「人体」開催趣旨と実物人体標本の展示意図についての解説文を掲載した。表面には標本の写真は掲載していない。



写真3 広報用チラシ裏面．各展示コーナーを表す展示物を掲載する際に、標本の写真を使用した．



写真5 企画展示入り口の館長挨拶グラフィックス．入り口はスロープになっており、その先に館長挨拶（写真右側）が設置された．企画展「人体」の展示テーマを説明した．



写真4 博物館だより紙面の比較．過去3年間の企画展示予告ページの比較．他の企画展では写真やイラスト主体で紙面が構成されているが、企画展「人体」では開催趣旨と人体標本を展示する意味を解説することに、大きく紙面を使用している．

ったが、例年のようにイラストや展示コーナー解説以外に、チラシ以上の展示テーマ設定の説明文を掲載した．その結果文字が多い紙面となった．

・パンフレット

パンフレットは企画展示ごとに展示解説および読み物として制作している．企画展「人体」においては、扱う内容と展示物の多さから、例年にないページ数を要した．その中で、本文1頁目に展示テーマ設定の説明文、全身標本を展示した「人体の構造」の頁において、人体標本を展示することについて献体の精神も含めて説明した．パンフレットの内容については、当館で台割り、執筆、図表の作成を行った後、愛媛大学医学部病理学第一講座と解剖学第一講座に解説文、図表の監修をお願いした．展示室内のグラフィックパネルのすべてにおいても監修いただくことができ、ともに正しさ、内容とも誇れる仕上がりになっている．またパンフレットに掲載した

病理標本について、借用元の東京女子医科大学病理学第一講座教授小林慎雄氏にもご協力と有用なご指摘を頂いた．

・企画展示室出入口での挨拶文（写真5）

展示室入り口、動線的に入場者が正面に見る位置において館長挨拶を掲げ、その中にも展示テーマ設定の説明がなされている．また、出口には献体者への感謝、協力者への感謝とともに、献体の精神を記述した．

・展示内容のサインと案内

上述のとおり、企画展「人体」では「見学者は自分の意志で標本を見る」ことを選択することを願っている．そのため、総合案内、自動券売機、企画展示室受付（入り口）に、実物人体標本が展示されているグラフィックパネルを掲げた．そのパネルを見て入場を拒否する来館者には、チケット代金の返金を行う準備も行った．

また、企画展示観覧を目的としなかった来館者に対して、企画展示の開催を知らせることは重要なことであるが、単に企画展示の観覧を勧めることはしなかった．少し説明が長くなっても、その簡単な内容と実物標本が展示してあることを説明した．このことは、当館の観覧料免除対象者（例えば高齢者）に入館チケットを発行する際にも同様の手間をかけた．

・共通券廃止

例年、常設展示と企画展示を同時に見ることで入館料割引の特典がある共通券を発行している．割引があるから企画展示も見るという状態をつくることは、企画展「人体」を開催する方針に反するため、今回に限り共通券を廃止した．

・場内撮影禁止サイン

ご遺体の尊厳を守るため、展示場内の撮影は一切禁止にした。少しうるさすぎるほどサインを掲示したが、撮影する見学者はいた。その際は職員、不在の場合は展示監視員がその見学者に直接ご理解を求めるよう呼びかけた。

・広報の重点と後援

プラستیネーションによる実物人体標本は国内で貴重なものである。当館の企画展は県内の学校施設に広く広報するものであるが、特に、医歯学、看護関係の学校に関しては県外にも広く広報した。愛媛県内の医療関係機関（愛媛県医師会、愛媛県歯科医師会、愛媛県看護学会、白菊会）に人体展開催と開催趣旨を説明して協力を促した。県下の医師会、歯科医師会にも後援を頂き、病院等の施設にも広報をする機会を得られた。また、松山盲学校の生徒の見学が実現した。資料借用元の各機関のご厚意で、生徒が手にとって内臓や病気の姿を調べることができた。

・ホームページ

当館のホームページに企画展開催の趣旨と各展示コーナーの説明を載せるとともに、献体の精神を掲載した。

（２）展示

見学者に生じるさまざまな感情や意見を考慮して、展示室の設計、演出には最大限の注意をはらった。特に全身標本について、多くの工夫を行った。設計には多くの医学関係者に説明を行い、助言を頂きながら仕上げていった。施工中も愛媛大学医学部に協力いただき、演出等を現地で実際にチェックして不具合を改修、調整した。また、開催中に常駐された医学者（後述）のご意見も参考にしながら、可能な限り展示室の調整を行った。

・展示構成

企画展「人体」では、人体の器官ごと10のコーナーに分けて展示された。各コーナーでは器官の機能、正常標本、それらと対をなすように病理標本を展示し、さらに最新の医療技術についても紹介し、明るい方向性を示した。ただ、生命に関する病気に関しては病理標本を展示しなかった。

展示の導入には、巨大な口のトンネルやバーチャルフォト、サーモグラフィーを展示し、来館者の興味をそそるように演出した（写真6）。展示室の一番奥に「人体の構造」と題して全身標本を展示した。各器官の有機的なつながりやそれぞれの位置関係、配置の複雑さ、巧妙さ、全体としての成り立ち、全身に対する大きさや形の比較などを、各部分を見学した後に総括として見てもら



写真6 展示室入り口付近。展示室の導入部分には視覚的に親しみやすい構成を行った。床面にはバーチャルフォト（医学関係の写真およびCGによる立体画像）が埋め込まれている。写真右奥のスクリーンには、サーモグラフィーによる入場者の映像が映し出される。入口は人の口を形取る造作を施した。

うためである。ヒトのからだ全体を自然に興味を持てるレイアウトにした。「人体の構造」の後、展示室の最終コーナーに「生命誕生」を設置した。標本や病など少なからず精神的に衝撃を与える展示内容であるために、最後は生命でもっとも幸福な瞬間である次の生命が誕生する瞬間を展示したのである。

・展示室演出

室内は明るく清潔感を出すように心がけた。室内の照明は増設した。壁面及び展示台などの造作は白色で統一した。各展示コーナーは色で分けて、コーナーサイン、壁面の最上部およびグラフィックパネルに表現した。色は明るいものを選択した。

体験型展示の設置、企画展示のイメージキャラクターの制作および活用により、子どもから大人まで興味を持てる展示に仕上げた。

・標本全般

標本には触れられないように、すべてアクリルカバーを取り付けた。各標本には解説と協力機関のみを記述した。当然、個人の情報は一切公表せず、質問にも応じない方針をとっている。

・全身標本室の設置

「人体の構造」に実物全身標本を展示した。企画展示室には全身骨格標本も展示されたが、この標本だけ筋骨格系のコーナーに展示し、残り内臓が見える全身標本はすべて1カ所に集めた。この「人体の構造」のコーナーのみ、部屋を設けて見学者が入室を選択できるようにした。見学者には企画展示室に入場することと、全身標本の見学を選択する2重の選択を課したことになる。部屋の入り口には、実物の全身標本が展示してあることを明言するグラフィックスパネルを掲げ、のれんで仕切をつくった（写真7）。のれんの切れ目が揺れるとスライス

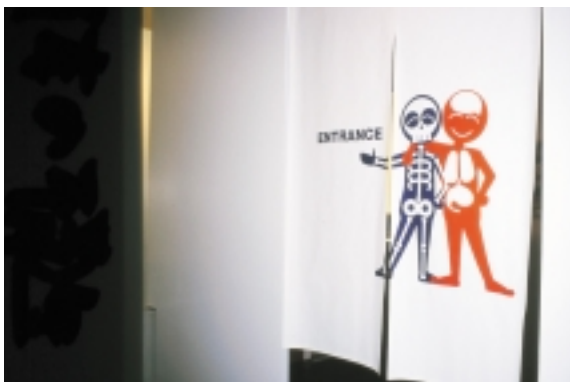


写真7 全身標本室入口ののれん。同様のものが出口にも設置された。のれんが揺れると室内をほんの少し覗くことができる。のれんの横には、全身人体標本が展示されているグラフィックスが設置されている。のれんをくぐった先には、全身人体標本の展示意図を説明するグラフィックスがある。

標本の頭部が少し見える。見学者はその一瞬の予告で入室の拒否を決めることもできる。のれんをくぐった先にはもう一枚グラフィックスパネルを設置し、全身標本の展示の意味を説明した。

・全身標本の展示法

標本を見てもその複雑さにどこを見ればいいのか分からなくなり、漠然と全体を見ることになりかねない。各標本には、該当する場所に器官の名前を表示した。スライス標本を除く全身標本は首にリングが付けられ、そのリングで吊り下げることによって標本を支持するのだが、首吊りをイメージさせないようにリングを首から上ではなく後ろに曲げて固定した。固定された標本は中空に浮いているので、足下の空間を展示台で埋めた。全身標本は一度設置すれば完全に動かさないように固定ケースに展示した。

・発生ステージの展示

胚子の実物標本では、はっきりヒトとしての外観が感じられる13ステージからの展示をはずした。胚子の標本は当初全部を展示する予定であったが、展示室の施工が完成し、医学関係者による検収を行った際に、標本の印象の強さが見学者に大きな影響を与えることが懸念される旨の助言があり、今回の展示からはずすことにした。

(3) 対面

企画展「人体」は展示を実際に見学する人をはじめ、企画に興味を持った人、博物館に来館した人、報道関係、展示に協力して頂いた方など「人体」に関係するさまざまな人が感じたことを尊重するように心がけた。そのため、人と対面する場面にも細心の注意をはらった。職員の意識や研修は前に述べたとおりだが、展示室内で展示物の監視や説明を行う者についても必要な能力を要求した。

・展示監視員

看護師または看護学校の学生など医学・医療に高い意識を持った者を採用した。展示物をとおして見学者と接したときにできるほんの一言でその真価が発揮された。研修では説明できない知識の有機的なつながりや本人のものとなっている医学的な意識が見学者の信頼を得、安心させることができたのではないかと。

・全身標本室

愛媛大学医学部、愛媛県医療技術短期大学の協力で、全身標本を展示した部屋に医学者（日本解剖学会、日本病理学会に所属）の常駐が実現した。全身標本の見所、全体を俯瞰する視点、標本の価値、標本作製の技術などを説明し、見学者のちょっとした質問まで答えていただいた。

開催結果

考えつくあらゆる可能性について、当館のとるべき態度を確認しながら開催の日、平成13年7月14日(土)に臨んだ。開催期間は同年8月31日(金)まで。開催日数は約50日であった。深刻な議論が繰り広げられることもなく、来館者をはじめ各関係者にまで大好評を博し、無事終了した。総入場者数約33,000人と例年の当館における夏の企画展示にしては、少ない入場者数となったが、反対に入館収入は高いものとなった。広報の制約や共通券の廃止といった入館収入の立場では厳しい状況の中で、入館収入の増加は新しい来館者層の開拓を意味している。当館での夏の企画展示は、家族連れかつ低年齢層をターゲットとした展示構成や広報が行われるのだが、企画展「人体」はその内容が少々高い年齢層に合わざるを得ない。結果的に成人層の来館者の増加に繋がり、入場料が子どもより高い分収入が増加した。その成人層の一部は明らかに医学関係者であった。また、総入場者数の減少は猛暑とも無関係ではなかったと考えている。

実物人体標本とその展示演出についてはおおむね好評であった。家族や自身の経験と照らし合わせることで標本に強く心を揺さぶられたことを意見する来館者も多かった。その方々もいい経験や勉強であったこととして職員と接してくれた。人体標本の展示について実施したアンケートの中で自由回答として人体標本の感想を記してもらった。そのすべてを付録として掲載している。

企画展「人体」の見学者で体の不調を訴えた者が開催中10人ほどいた。どれも軽いめまいや貧血で、全員当日体調が悪かった。例年、混雑などで体調不良を訴える来館者はいるが、今回は少し多い印象を受けた。今回の動線は長く、来館者の滞留時間も長い分混雑が多かった。標本を見たショックとの関係は不明であるが、まったく

健康体であったにもかかわらず、調子が悪くなったという主張はなかった。展示監視員に看護婦がいたため、処置が迅速に行えたことも見逃せない。

実物標本展示への評価

当館は企画展「人体」において、実物人体標本を展示するために多くの努力を行ったが、実際に標本を見た見学者は標本と標本の展示についてどのような感想を持ったのか知っておく必要がある。実物標本を展示する機会はまれなので、展示する度に来館者の意識を調査することが、今後の実物人体標本を展示するにあたり重要な資料となる。また、当館で行ったこと、来館者の下した評価も認識する必要がある。そのため、当館では実物人体標本とその展示についてアンケート調査を開催中に行った。調査は企画展示室出口において無作為抽出された見学者と対面することによって行われた。有効回答者数は346であった。集計結果を図1、2にまとめる。

(1) 見学者構成

女性が6割ほどを占め、10代から40代が見学者の大部分であった。特に30代が多かった。10歳未満が4%と非常に少ないことが今回の企画展示の特徴である。集中する年代の20代、30代の女性の見学者が男性の2倍であることは注目すべきである。高齢者(60歳以上)では男女比が逆転し、その差が著しい。この世代では個人や友人知人との来館が多かった。

来館グループは家族親戚が7割を越えて圧倒的に多い。それに対して未成年の見学者数は低い。家族親戚での見学者構成が、若い夫婦と幼い子ども、3世代、祖父母と孫の関係よりも成人した子どもと親または中年、熟年層の夫婦である場合が多かったことを意味している。また、各医療関係機関の協力の成果が医学生、看護学生および医学関係者や看護師の姿が目立たせる結果を引き起こしたといえる。看護婦の姿が多かったように展示室内で印象を受けたが、男女比、特に20代から30代の女性見学者の高い比率に一役かかっていると考えられる。

見学者の7割が企画展示開催を知っており、企画展示を見る予定で来館している。企画展示を期待するリピーターに加え各医療関係機関の協力、広報努力の結果と見られる。一方で、企画展示の見学を来館後に決めた入館者のほとんどが実物標本の展示を知らないという結果がでた。今回の館内広報の難しさ、すなわち各来館者ごとに長い説明を要すること、その結果多くの来館者と接することが難しいことに起因している。さらにサインに書かれている文章を読む来館者が少ない根本的な原因も加わっている。

(2) 標本展示の評価

実物人体標本については、実に8割の見学者に支持された。不快感を感じた見学者の割合はごく少数にとどまった。また、実物標本展示の是非に関しては9割の見学者に展示の必要性を支持された。全身標本については希望者のみ見ることができるよう、すなわち展示室内で見学拒否を選択できるように構成したが、ほとんどの入場者が見学した。全身標本を見学することに強い不快感を示し、見学を拒否する入場者も実際にいたので、この処置の重要性は確認されたのだが、ほとんどの入場者が見学したことの重要性も見逃せない。全身標本の見学者は大別すると2つのタイプに分けることができる。1つは、当館の演出に無関係に展示してあるものを見たいという衝動で入室する者、もうひとつは入室の意味を理解している者。見学拒否は後者に属している。入室する際に戸惑わなかった者がすべて前者に属するわけではないので、展示室での印象はあてにはならないが、全身標本が本物であると気づかない、または信じない者は意外に多かった。スライス標本は色彩的にも美しかったことや全身が骨格以外の標本になることがうまく理解できないことに起因するようだ。入室に関する理解はさまざまであるが、標本の感想は8割以上の見学者に支持された。また、標本に関する感想や展示の是非は器官、病理、全身の意見の比率は変わらないにもかかわらず、全身標本は希望者に見せるべきだと考える意見が7割近くに上っている。全身標本は展示物としての効果として他の標本と同列であっても、見た目や意味から生ずる感情は他の標本と異なることが見学者の立場からも確認できた。

(3) 入場者の全体像

実物人体標本に関する評価が世代や来館意識でどのように異なってくるか調べるために、数量化Ⅲ類⁶⁾⁷⁾による分析を行った。回答者は

$$(x_i, u_i) \quad i = 1, 2, 3, \dots, n \quad n : \text{回答者数}$$

また、カテゴリー(各設問の項目)には

$$(y_j, v_j) \quad j = 1, 2, 3, \dots, m \quad m : \text{カテゴリー数}$$

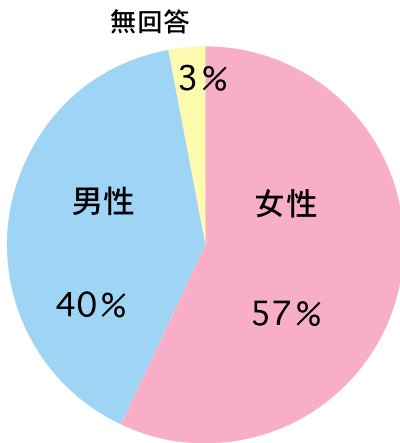
による2次元座標を与える。回答者*i*がカテゴリー*j*に回答していれば1、回答しなければ0とおくことで、回答者のカテゴリーに対する反応パターンは行列

$$(i, j) = h_{ij}$$

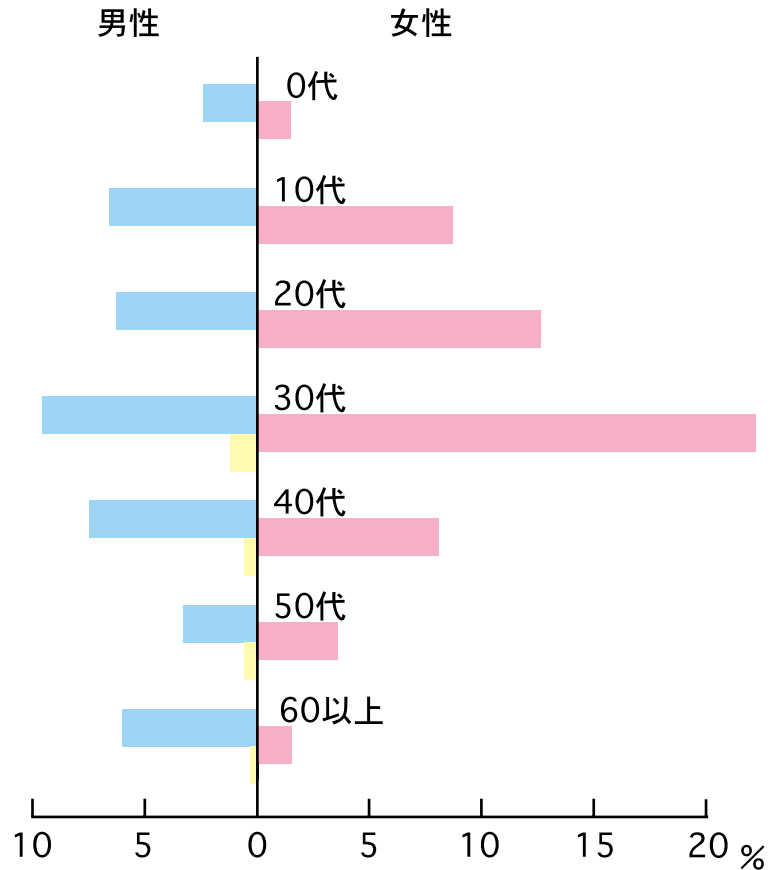
に変換され、この行列を量的に取り扱うことにより、反応の分類強度が回答者またはカテゴリーの座標値に与えられる。 (y, v) 散布図を描くことにより、回答パターンから得られるカテゴリーの分類を行うことができる。

処理としては次のように損失関数

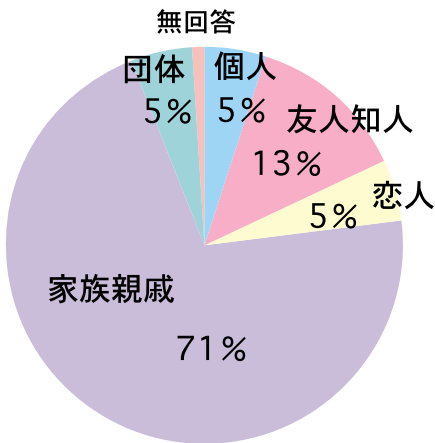
(a) 男女比



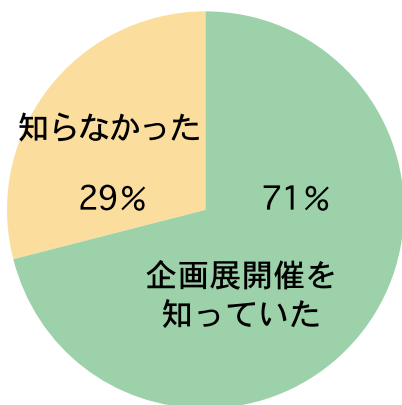
(c) 年齢別男女比



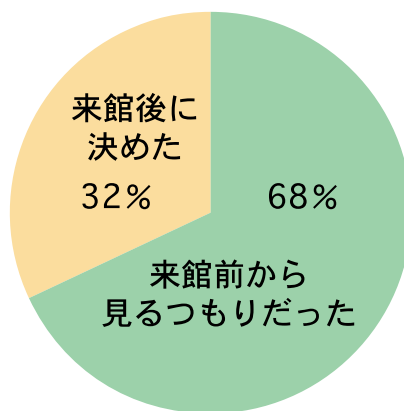
(b) 来館グループ



(d) 企画展の開催



(e) 企画展観覧



(f) 実物標本の展示

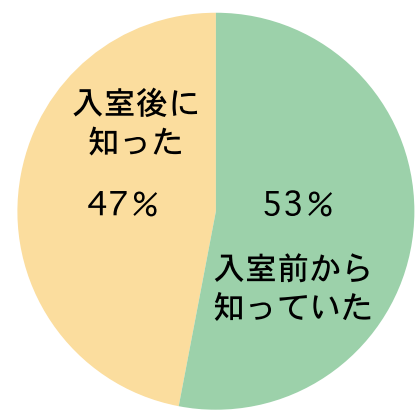
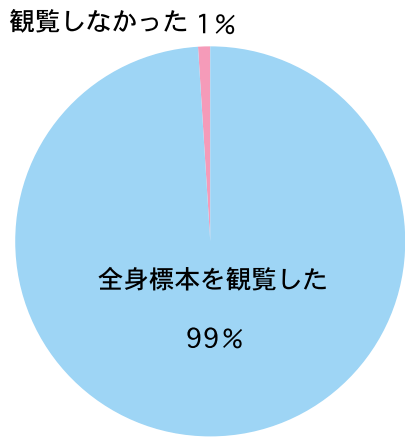
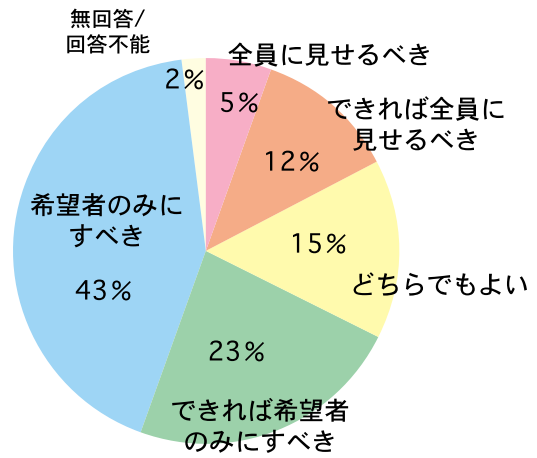


図1 企画展「人体」入場者についての集計結果。(a) 入場者における男女比。(b) 見学者グループ構成。(c) 年齢別男女比。黄色は性別無回答者を表す。(c) 以下は企画展についての意識の集計結果。(d) 開催を知って来館したか。(e) 企画展の観覧はいつ決定したか。(f) いつ実物人体標本が展示してあることを知ったか。

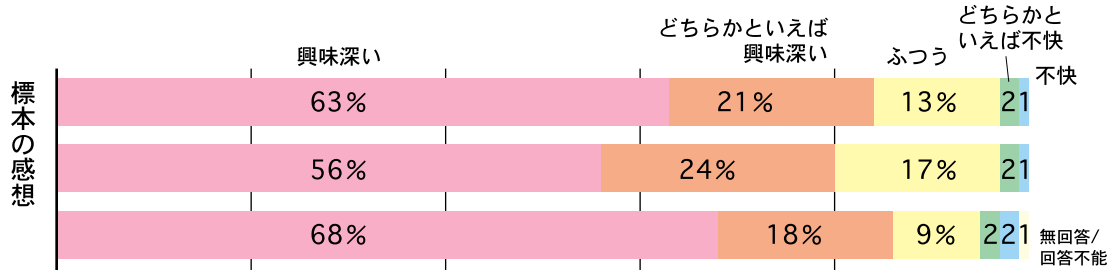
(a) 全身標本観覧比率



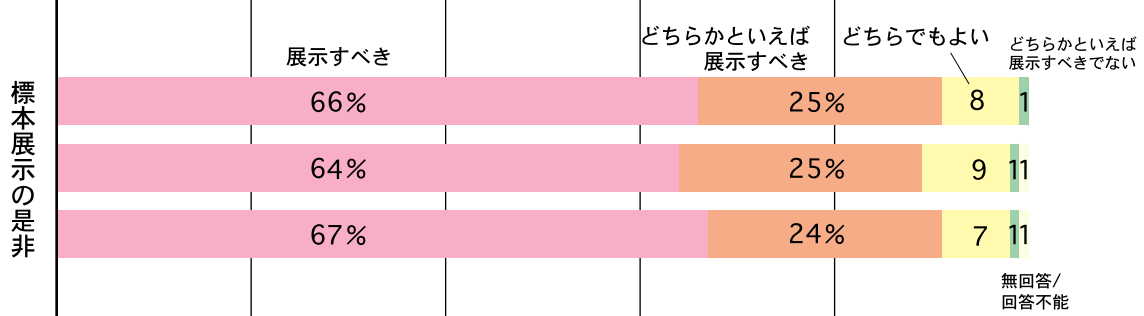
(b) 全身標本の展示方法



(c)



(d)



(e)

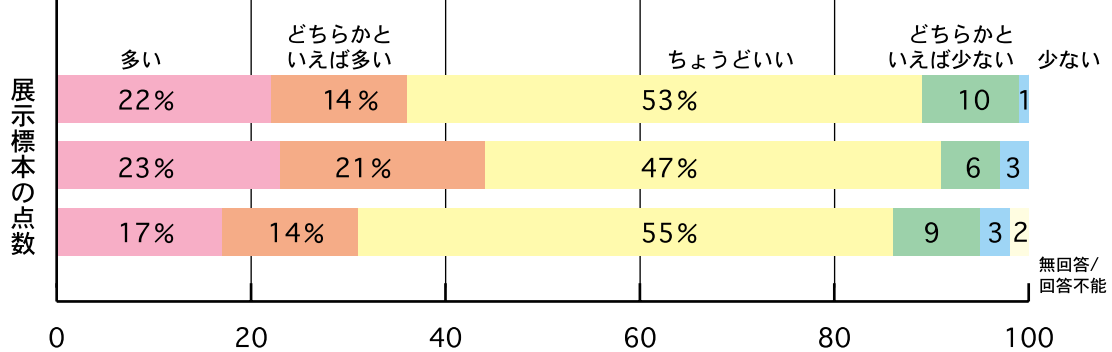


図2 実物人体標本についての集計結果。(a) 全身標本を観覧した比率。(b) 全身標本の展示方法について。(c) 実物人体標本を見学した感想。(d) 実物人体標本の展示是非について。(e) 展示点数について。(c),(d),(e)の各3本のグラフは、それぞれ器官、病理、全身の標本についての集計結果である。

$$L = \sum_i^n \sum_j^m [(x_i - y_j)^2 + (u_i - v_j)^2]$$

$i = 1, 2, 3, \dots, n$. n : 回答者数
 $j = 1, 2, 3, \dots, m$. m : カテゴリー数

を設け最小化させる。その際、散布図の重心が0，分散が1，かつ回答者およびカテゴリーに付与した座標の第1，2成分はそれぞれ無相関である拘束条件を課す。このとき、カテゴリー座標の成分が作るベクトル $y = (y_1, y_2, \dots, y_m)$ ， $v = (v_1, v_2, \dots, v_m)$ は

$$f_i = \sum_j^m h_{ij} \cdot g_j = \sum_i^n h_{ij}$$

としたとき，

$$H_{j'j''} = \sum_{i=1}^n \frac{h_{ij'} h_{ij''}}{f_i g_j} \quad j, j' = 1, 2, \dots, m$$

を成分とする m 次の行列の固有ベクトルとして求められる。散布図上で固有ベクトルの成分であるカテゴリー

座標ベクトル (y_j, v_j) は，回答総数 $T = \sum_i^n \sum_j^m h_{ij}$ により規格化している。

損失関数の性質から，いくつか特定のカテゴリーで同時に反応している回答者が多いと，それらのカテゴリーは散布図上で近くに配置される。反応する回答者が少ないカテゴリーは中心から外れ，多くの回答者が反応したカテゴリーは中心に配置される傾向がある。本分析の数値処理は Mathematica で行った。

調査において細かく分類した項目も，分析では大きくまとめている。世代では20歳未満，20～40代，50歳以上，感想では興味深い，ふつう，不快といったように3段階の評価とした。まとめられた調査項目と散布図上で使用した指標の一覧は表2にまとめている。

図3は全部の標本について調べた結果である 図3(a)

表2 散布図指標の対応表。アンケート調査項目および選択肢(カテゴリー；左)を省略した指標(右)を散布図上にプロットした。

調査項目 / 選択肢 (カテゴリー)	指 標	備 考
企画展「人体」の開催 知っていた 知らなかった	知開催 不知開催	
企画展観覧を決めたのは 来館前から決めていた 来館して決めた	来館前 来館後	
実物人体標本が展示されていることを 入室前から知っていた 入室後に知った	入室前 入室後	
実物人体標本を見た感想は 興味深かった ふつう 不快だった	標本興味 標本興味? 標本不快	種類によりプロット位置が大きく離れているときは器・病・全で区別する
実物人体標本を展示したことについて 展示すべき どちらでもよい 展示すべきでない	展示 展示? 展示×	種類によりプロット位置が大きく離れているときは器・病・全で区別する
全身標本を希望者のみに観覧させたこと 希望者のみに見せるべき どちらでもよい 全員に見せるべき	希望者 どちら 全員	
実物人体標本の展示点数について 多い ちょうどいい 少ない	標本多 標本適 標本少	種類によりプロット位置が大きく離れているときは器・病・全で区別する
年齢と性別について	性・年齢範囲で表示	
来館したグループ構成について 個人で来た 友人・知人と来た 恋人と来た 家族や親戚と来た 団体できた	個人 友人知人 恋人 家族親戚 団体	

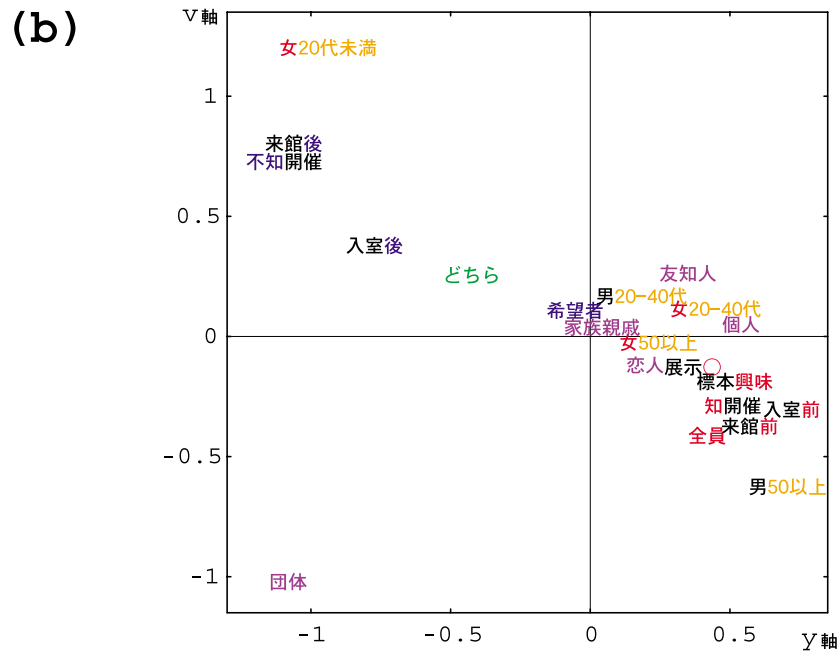
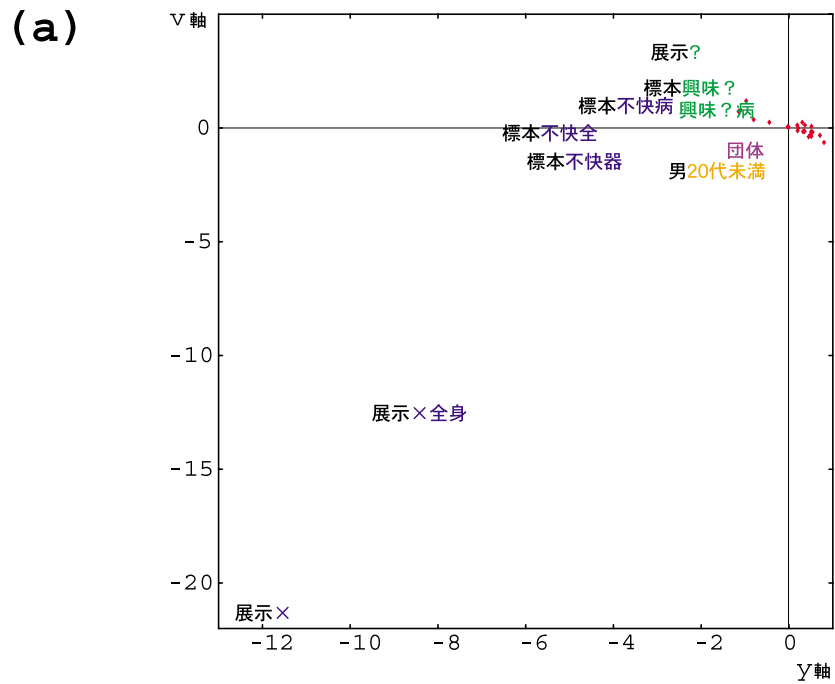
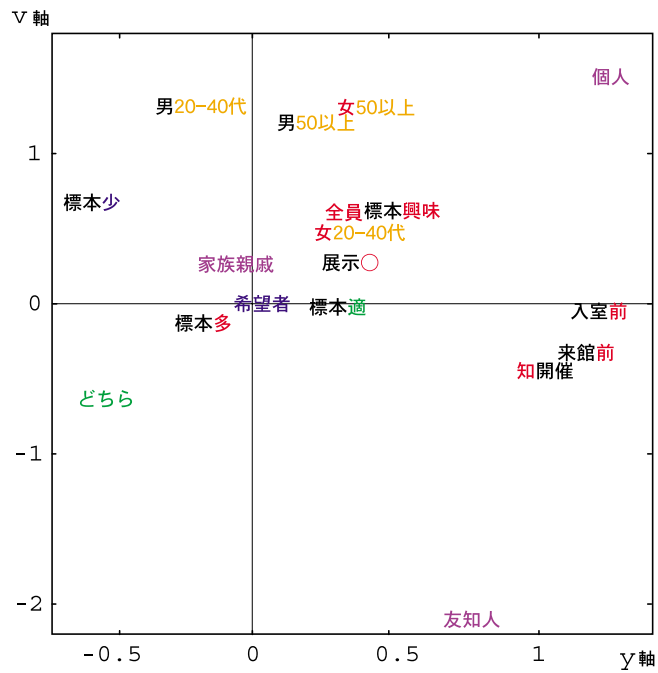


図3 人体標本全般についての散布図。プロットされた指標の位置関係でどのような意見（カテゴリー）が同時に選択されているかを調べる。質問選択肢のなかで多くの回答者が選択した選択肢ほど原点付近にプロットされる。また、質問選択肢の中で、同時に選択されたものどうしは近くに配置される。(a) 散布図全体。原点から離れるほど回答者が少なかった選択肢である。同程度の回答者数があった未成年女性と比べると、未成年男性の方が標本展示に否定的であることがわかる。同様に、積極的な入場意識が他のグループに比べて低いと思われる団体は、標本展示にも消極的である。(b) 全標本の散布図の中心付近。y軸は標本展示に関する積極性の方向と解釈できる。

(a)



(b)

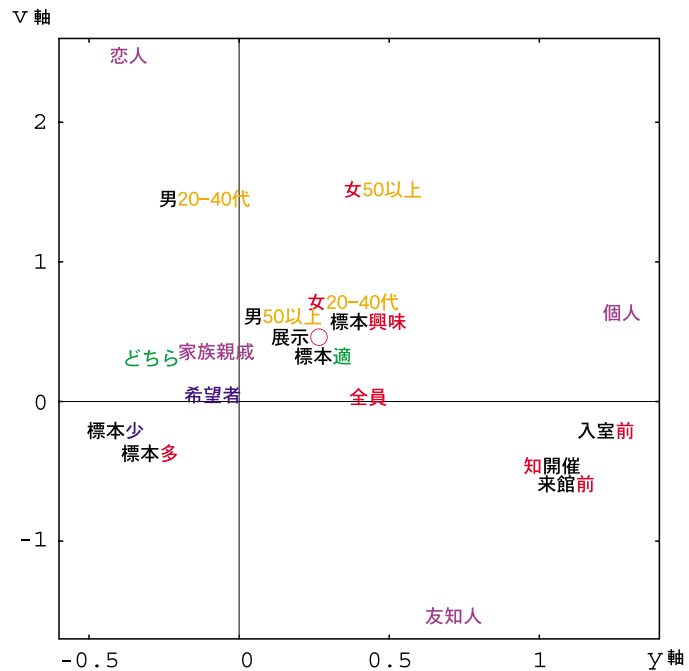


図4 標本の種類を限定して解析した散布図。(a) 器官の標本に限定した解析結果。(b) 全身標本に限定した解析結果。2つの結果はおおよそ同じ内容を示している。

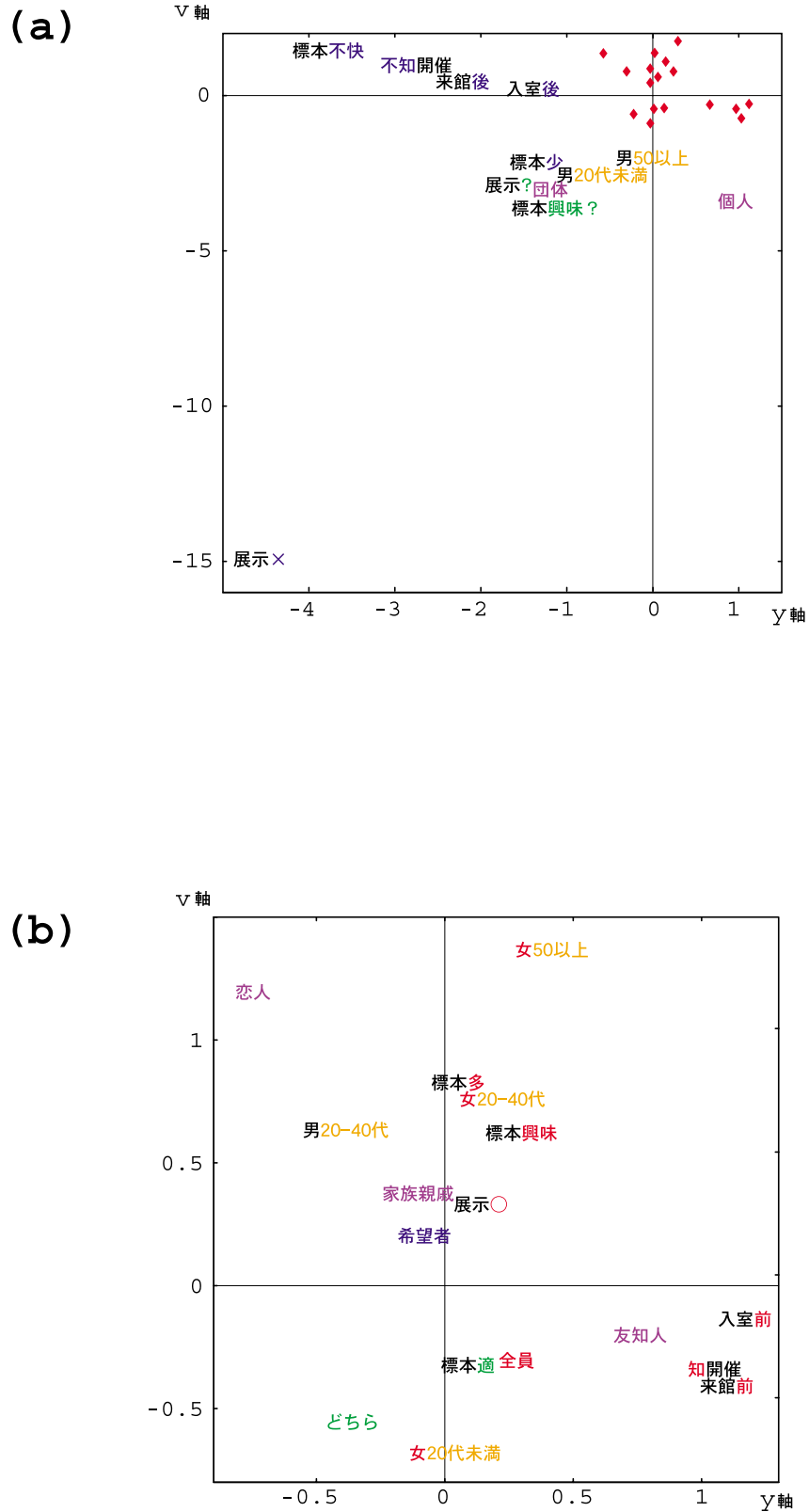


図5 病理標本に限定して解析した散布図。(a)は散布図全体を表し,(b)はその中心付近をプロットしている。図4と大きく異なるところは50歳以上の男性の反応と展示点数である。未成年男性と同様に展示について中間的な意見を持ち、標本点数が少ない印象を持っている。個人で来館する比率が高く、企画展示に積極的であると考えられる。他の種類の標本と同様に支持している世代を持った展示点数の印象と対照的である。

が散布図全体を、図3(b)がそのうち回答者の多い中心付近のみをプロットしたものである。散布図の横軸は展示や標本に対する積極的な姿勢と解釈できる。見学を期待して来館した積極的な見学者は、当然ながら標本に強い興味を持ち、展示の是非について肯定的な意見を持っている。成人層、すなわち20歳以上で支持され、家族よりも個人や友人知人で来館した層に評価されている。このような積極的な見学者は全身標本を全員に見せることに賛成しているが、当館の企画展の主たる対象である家族や親戚で来館した者は希望者に見せたことに賛同している。逆に、未成年層や団体での見学者は標本の展示について消極的な姿勢を持ち、この企画の根本的な難しさを表している。からだへの興味と標本を見た感想は別であること。実物標本は直感的で深い理解が得られる展示である一方で、見学者の感情とも関係する展示物でもあることである。見学者に対する説明義務のように企画段階で予想され、対応したことについても、十分な実行が難しいことがここでも明らかになった。

図4～5は標本の種類ごとに調べた結果である。横軸が標本に対する積極的な姿勢と解釈できる。20から40代の女性が特に積極的に評価していることが分かる。50歳以上の女性は器官、病理、全身といった分類に関係なく標本に積極的な興味を示していることに対し、同じ範囲の男性は分類ごとに評価が変わっている。全身には強い興味を示す反面、病理標本では中間的な反応となり、未成年男性と似た感想を持っている。この範囲の男性が個人や友人知人と来館する割合が多いことと関係している。器官や全身では評価として読みとれない点数の多少が、病理標本では傾向として見る事ができた。他の種類と同じく病理標本にも肯定的にとらえた層には展示点数が多いと判断され、その展示に中間的な意見の層には少ないと判断されている。病理展示は本企画展において資料点数が最も多い展示分野であったにもかかわらず少ない印象を与え、かつ、標本が不快感を与えたわけではない。このグループ層は身体への興味や関心が高く、知りたい病気について満足できるだけの展示ができていなかったと読みとれる。病気の関心は年齢がすすむにつれて高くなる。自身や身近な人の経験ともあわせて、感情的にもさまざまな反応がある。見学者の知りたい病気もさまざまであろう。高い年齢層に評価されるべきカテゴリーでのこのような結果は、病理標本をもとにした病の表現不足として反省点としたい。病気を扱う展示に関しては、展示点数や展示物の種類の選出に慎重さが必要であるといえる。

謝 辞

本企画展示実現のために有益な助言を頂いた順天堂大学坂井建雄教授、展示及び解説の監修を頂いた愛媛大学医学部植田規史教授、松田正司教授、小林直人助教授をはじめ病理学第一、解剖学第一講座の先生方、人体標本展示に関して助言いただいた名古屋市科学館尾坂知江子学芸員、人体標本の展示を許可いただき貸し出してくださった埼玉医科大学、東京女子医科大学、その他多くの医学関係者および博物館施設のおかげで、本企画展が実現しました。ここに感謝の意を表します。

引用文献

- 1 尾坂知江子(2000)名古屋市科学館紀要 No.26 p11 - 16
- 2 小林身哉・坂井建雄(1997)解剖誌 72 p461 - 464
- 3 小林身哉・坂井建雄(1998)解剖誌 73 p475 - 478
- 4 竹内修二・小林身哉・坂井建雄(1999)解剖誌 74 p503 - 506
- 5 坂井建雄ら(1999)「大学における人体標本施設の実態と解剖学教育に果たす役割に関する調査研究」平成10年度文部省科学研究費基盤研究(C)企画調査報告
- 6 岸野洋久(1996)数学セミナー vol 35 No.6 p84 - 88 日本評論社
- 7 水野欽司(1996)多変量データ解析講義 p294 朝倉書店
- 8 小林道正, 小林厚子(1996) Mathematica による多変量解析 p202 現代数学社

付録 実物人体標本についての感想の一覧

年齢	性	自由回答
51 - 60	女	大変興味深く見せていただいた
21 - 30	女	良かった
31 - 40	女	グロテスクに感じますが、自分の体の中がどのようになっているのが良く分かりよかったです
41 - 50	男	リアルだったすごいと思った
61 -	男	表現できない
41 - 50	男	よくできている。初めて見る。写真でしか見たことがないものが本当にみれた
51 - 60	女	生命の複雑な働きがよりよく理解できた。病理標本がちょっとわかりにくい
31 - 40	女	ぎょっとしたけれど生々しくない。分かりやすかった。
31 - 40	女	こんなになっているのかとびっくりした
61 -	女	病気の位置内容は興味があり、このようになっているのかと思った。自分が手術されるときは麻酔で分からないから今日は勉強になった
61 -	男	精巧に出来ている。人間の体はきれいだった。機械よりも優れている心臓の本当の働きが分かった。人の体は良くできている(心筋梗塞経験者)
61 -	男	驚いた。自分と重ね合わせて想像を超えて実物と接することができた。こんな機会はない。ありがとうございました。
61 -	男	参考になった
21 - 30	女	びっくりした。驚いた
51 - 60	男	精密にできています。これたらまた来ます
41 - 50	女	ありがたく思いました
61 -	男	疾病に対応。度胸を決める、医師の見立て方に理解できる資料となる。予備知識となる
11 - 20	男	本物の体の仕組みがみれて良かった
21 - 30	女	人体の標本は思ったより怖くありませんでした
31 - 40	男	今後の医学の発展には重要だと思う
21 - 30	女	子供が遊べる展示などもあり楽しかった
21 - 30	男	特にありません
51 - 60	女	実際の臓器の配置が分かって良かったと思う、すごかった。
61 -	男	興味深かった。良くできている。
31 - 40	女	初めて全身の標本を見ました。自分にも同じものがあると思うと、それほど違和感はありませんでした。1人の人としてのすばらしさを実感しました。
11 - 20	女	自分の体内にこのようなものがあると思うと驚きと同様に興味もわく夏休みの一課題としてすばらしい体験ができた
51 - 60	男	異常の臓器の展示のみでは正常との比較ができない
51 - 60	女	自分の体 健康にあわせて見せていただきました
31 - 40	女	初めて見てびっくりした
11 - 20	女	体験コーナーとかとても楽しかった。実物展示がすごかった
11 - 20	女	実物をみられていい機会だった看護婦志望のため、これをぜひ生かしたい
61 -	男	仲間に知らせて見学するよう進めたい
61 -	男	余り「詳しく」見ると気分が悪くなるがある程度見た
51 - 60	男	興味深く見学した、まず見る機会もないと思います。
0 - 10	男	良く分かった。人の体の中が、こんなにも仕組みがあるとは思わなかった。
51 - 60	男	なかなか見る事のない実物標本を見ることでとても勉強になった
31 - 40	女	近年「命」を実感する機会の少なくなったこの世の中で、どういう形であれ「生命」というものにふれることができるのはいいことです。私たちが日々口にする牛肉なども、もとは生きていたんだよと言うことが子供達に分かればいいなと思う。
21 - 30	女	気持ち悪くなく、関心が持てた。

- 31 - 40 女 以前見たことがあるので（広島で），2回目だったので何とも思わない．
- 51 - 60 男 模型とは異なる細かい筋，神経などが良く分かる．
- 61 - 女 実物を見れてうれしかった．とても勉強になった．
- 41 - 50 男 気持ち悪い．多少驚いたが勉強になった．
- 11 - 20 女 はじめて人体実物標本を見て，おもしろかった．
- 31 - 40 父がガンでなくなったので，病理標本を興味深く見させていただきました．人体の器官は見て気持ちのいいものではありませんが，自分の体のことをきちんと理解し，健康には留意する目的から，器官の働き及び病気については勉強することが必要だと思われます．大変意義のあることだと感じています．
- 11 - 20 男 ちょっとこわかった．勉強になった．
- 31 - 40 びっくりした．勉強になった．
- 31 - 40 女 日頃見ることがないので，興味深く見学した．
- 31 - 40 女 人の体はこのようになっているのかと実感した．
- 21 - 30 女 気持ち悪かった．勉強になった．
- 31 - 40 男 びっくりした．このような方法で標本がつけられていること，はじめてプラスチック標本を知った．標本としては良い（輪切りの標本）．
- 41 - 50 男 大変協力者（献体者）に対して，ありがとうと本人に伝えたい．献体者がいて医学の発展があると実感した．
- 31 - 40 女 思っていたよりもきれいな形だった，もっと崩れているかと思っていた．
- 21 - 30 男 医学部で勉強中なので，以前より興味深く見る事ができた．（広島で見たことがある）
- 31 - 40 女 きれいだった．もっとグロテスクかと思った．
- 11 - 20 女 人間の体がこんなものなんだなと思った．
- 11 - 20 男 びっくりした．勉強になった．
- 31 - 40 女 いろんなことが案内の人の説明で良く分かった．
- 31 - 40 女 実に興味深かった．
- 31 - 40 男 ちょっとショック．しばらくするとふつうになった．
- 61 - 男 分からなかったことが分かったので良かった．内視鏡が良かった．（以前に胆嚢を除去したことがあった）
- 31 - 40 女 見る機会がなかった．このような展示をもう少しゆっくり見たい．勉強になりました．また見学したい．
- 41 - 50 女 思ったよりきれいな標本だった．
- 女 詳しく分かり，良かったです．
- 31 - 40 女 肺がんの人の肺が特に印象に残っている．困っていると係りの人が説明してくれたので助かった．
- 31 - 40 女 もっと詳しく知りたい（たとえば眼球，血液について，感染について）
- 41 - 50 男 病理組織について一般的な解説があっても良かったと思います
- 11 - 20 女 最初は実物とは気づかず，知ったときには少々驚きました．でも大変興味深く見させてもらいました．勉強になりました．
- 0 - 10 女 おもしろかった
- 21 - 30 男 興味深かった
- 31 - 40 女 実物標本はとても興味深く見る事ができた．事前に実物標本があると言うことをもっとアピールすると良いと思う．
- 11 - 20 女 気持ち悪かった
- 0 - 10 男 おもしろかった
- 11 - 20 男 すごく気持ち悪かったけどよく体のことが分かった
- 31 - 40 女 人体の仕組みが図とか写真では分からないことがよく分かり興味深かった．まるでパズルのようです．病理標本は，ちょっとその方面の知識がないのでどこがどうなって病気なのかよく分からなかった．
- 21 - 30 女 まず驚いた．あまり長くはみれなかったけど，自分も同じ体なんだしと思うとそんなに怖くなかった

- 21 - 30 女 健康なときはあまり意識したことの無い自分の体内のことがよりリアルに分かってとても良かったです。作り物ではあまり実感できませんが実物標本を見てとても良かったです。
- 31 - 40 男 なかなか見る機会がないので興味深く見た
- 21 - 30 女 こわかった
- 0 - 10 男 日頃滅多に見られないものでとても勉強になりました。自分の体にも知らないことはたくさんあります。
- 61 - 女 自分の体がこんなになっているとは知らなかったの、大変勉強になったと思います
- 51 - 60 女 少しショックだった、献体された方々には敬意を表します。
- 31 - 40 男 人体の体は複雑だと思った
- 41 - 50 男 気持ち悪く見られることがよい
- 31 - 40 女 すごい一言につける。今まで見たことがなかったので
- 0 - 10 男 ちょっと気持ち悪い。足がガクガクした
- 41 - 50 男 複雑な気持ち。医学の進歩にはよいがリアルすぎる点もある。
- 0 - 10 女 びっくりしました
- 31 - 40 男 なかなか人体実物標本を見る機会がないのでとても良かった
- 31 - 40 女 子供は恐がるので本物だと知らないでほしい
- 11 - 20 男 人間の体の中身がよく分かった
- 31 - 40 女 化学の進歩に驚くとともに、人体の持つ形としての意味と精神的な意味について考えざるを得ませんでした。学生時代医学部の人体解剖を見る機会があったのですが、あのときはまた違う感じを持ちました（年齢のせい？）今回こうした機会があったことは良かったと思います。子供達とも話したいと思います。
- 31 - 40 女 人体の体の不思議と感動を思いつつ、悲しい何ともいえない思いです。
- 31 - 40 女 気持ち悪かったが自分の体のことが少しでも分かったので良かった
- 31 - 40 男 とても勉強になりました
- 21 - 30 男 模型とは違った質感が良かった
- 31 - 40 女 少し気持ち悪い
- 0 - 10 男 少し怖かった
- 21 - 30 男 もう少し説明がほしかったが、非常にいいものを見させてもらいました
- 31 - 40 女 実物を見る機会など滅多にないので、個人的には大変興味深く拝見しました。
- 21 - 30 男 今までに見ることのできない標本で、体の構造が違い角度からみれば、大変興味深かった。
- 51 - 60 男 初めて見たからちょっと気持ち悪かった
- 21 - 30 女 やはり「実物」としてみると、リアル感もあり、興味がわいてきて、しかもとてもよく分かっていいと思う。子供達にもなるべくこれからは実物のものを見せる機会を多くした方がよいと分かった。
- 51 - 60 以前より興味があり、今回見られて良かった。
- 51 - 60 男 改めて、体の神秘さを感じるとともに、病気になるまい健康体でいる日常生活を送ろうと思った。
- 41 - 50 女 初めて見てびっくりした。勉強になった
- 31 - 40 女 少し気味悪かった
- 31 - 40 女 子供達は、展示されていたものが本物だと分からなかったようだったが、あまり、見る機会はないので、見られて良かったのではないかと思う。自身も初めてだったが、あまり不快とは思わなかった。
- 31 - 40 男 一般人に非常に分かりやすい
- 31 - 40 男 理科室の標本しか見たことがなかったので、技術の進歩に驚いた。医学に関わる人は、これらの標本を活用してよく勉強し、医療に役立ててほしいと思います。
- 31 - 40 男 自分の体の大切さを実感できると思う。愛媛で開かれたことを良かったと思います。
- 61 - 男 模型のみ見ていたので実物に興味を持っていた。非常に勉強になりました。
- 21 - 30 女 本物を見るというのはリアルでとても勉強になりました。
- 31 - 40 男 とても良かった。写真より説得力あり。
- 31 - 40 女 勉強になりました

- 21 - 30 女 見る機会がないと思っていたので今回の企画は Good !
- 31 - 40 女 病理標本は、正常なものと比較できたらよかったと思った。
- 51 - 60 女 人の身体の精巧に出来ていること、人の体の不思議さについて感動しました。命を大切にすることの大切さを、この展示を見て、さらに強く感じました。ありがとうございました。
- 31 - 40 女 大変貴重な展示だと思います。献体に対する配慮が見ているものにも伝わってきます。
- 21 - 30 男 分かりやすい。
- 31 - 40 女 今日はとても勉強になりました。人間の身体はすごいと思うと同時に、大切にしていきたいと思いました。本当にありがとうございました。
- 11 - 20 男 案外子どもも平気で見ていた。滅多に見られないので展示して良かったと思う。
- 31 - 40 女 我々の人体の内部を詳しく見ることができ、子ども達にも良い勉強になりました。病理標本ではいろいろな病気になったときの標本を見ることができ、病気の怖さを実感しました
- 61 - 男 非常に参考になります
- 31 - 40 女 なかなか見ることができないので勉強になりました
- 31 - 40 女 見たことがなかったので驚きでした
- 21 - 30 女 普段絶対に見ることのできないもので、一言で言えば「感動」です
- 11 - 20 男 鶏肉みたいだった
- 41 - 50 女 標本説明も付いており分かりやすいと思ってみた
- 41 - 50 男 骨格や臓器、単独のものが多いので、実際の人体構造を理解するには大変ためになる。
- 41 - 50 女 グロテスクです。でもよく分かります。
- 31 - 40 女 よかった
- 11 - 20 男 すげえ。
- 11 - 20 女 よく体のことが分かった
- 61 - 男 ものすごい動物だと再認識した
- 41 - 50 男 展示決断に敬意を覚えます
- 51 - 60 男 標本が回転し全身を360°の角度から見られたらなお良かった。
- 31 - 40 女 良くわかった
- 31 - 40 女 来館前は興味深さだったが、いざ見学の時点では少しとまどいがあった。滅多に見られるものではないのでこの機会にと思い見学して良かったと思う
- 11 - 20 男 気持ち悪いのもあったけど、体の仕組みがわかるので見て良かったと思います
- 31 - 40 女 大人には興味があるが、小さい子どもにはもっと楽しみながら学習できるような工夫をしてほしかった。
- 11 - 20 男 とても実物の器官が多かったのでいろいろと学べてすごく興味津々に見られました
- 11 - 20 女 初めは気持ち悪そうなイメージがあったが、実際に観覧してみたら興味深くみれた
- 31 - 40 女 普段見ることのない病巣の標本は大変興味深かった。今後の医療の発展のため、献体された方に敬意を表します。
- 21 - 30 女 大変勉強になりました。標本になった方達のためにも、より多くの人に生命のすばらしさを伝えられるといいと思います。がんばってください。
- 21 - 30 男 色々なことが分かり、良かった。
- 51 - 60 男 別に分かりません
- 21 - 30 女 人体について興味深いお話も聞けて、とてもおもしろかったです。
- 41 - 50 女 見ることのできないものを標本にして見せてもらって感謝しています。自分の体について知らなかったことが多かったと思います。
- 11 - 20 女 説明を中高生にも理解できるようやさしくしてほしい。しかし、実物の展示という点が良かったと思う。
- 31 - 40 女 最初は驚いたが、滅多に機会がないので見学できて良かった!! 提供して下さった方のおかげでいろいろ考えながら見せていただけたのでありがたかったです。
- 41 - 50 女 少し気持ち悪かった。
- 11 - 20 女 とても分かりやすく良かったです。

- 0 - 10 女 気持ち悪かった .
- 31 - 40 男 本物がみれたので良かった .
- 男 きもい！でも本物だからきもいといいにくい .
- 11 - 20 女 もう少し詳しく標本のしかたを示してほしい .
- 11 - 20 女 とても力が入っているのが伝わってきました . 係りの人が積極的に話しかけてくれたり , 仕組みを教えてくださいましたので十分理解でき , 学校の勉強では学べない直接的な人間に対する感動を味わえました .
- 11 - 20 女 おもしろかった .
- 31 - 40 男 かなり子ども達にとって衝撃的な内容だったと思う .
- 41 - 50 女 気持ち悪かったけど良くわかった . また見てもいい .
- 11 - 20 男 普段は本とかで見ているので平面だけど , 立体になるととても分かりやすいと思う .
- 31 - 40 女 複雑な人体の様子がよくわかった .
- 11 - 20 男 大変貴重なものだと思ったが気持ち悪かった . 担当者はよくやるなーと思った . 腸の部分がうまくできていた .
- 11 - 20 女 リアルだった .
- 21 - 30 女 とても興味深く , 詳しい説明も聞くことができ , 質問もできたので来てよかった . ただ見せるだけでなく専門の方がいたので満足できたとし , 来場者にも配慮のある博物館だと思った . またこういう企画展をやしてほしいと思います .
- 31 - 40 女 よかったです
- 31 - 40 男 大人には興味を持つ人が多いかもしれないが , 子どもには難しい内容ではないかと思う .
- 31 - 40 女 希望者のみというのがわかりにくかった . 病変部をもう少しはっきり図示してほしい . 出血部は変色があるので分かりやすいが , その他 , 硬化とか他のものは分かりにくかった .
- 21 - 30 女 人体の実物を見ることのできないので , 体の仕組みを改めて考えることができました .
- 31 - 40 男 とてもおどろいた . 人工標本とは違い , 思わず見入ってしまった .
- 21 - 30 女 思ったよりも標本が少なかったように思います . 仕事上 , 興味があり勉強になりました .
- 41 - 50 男 献体する人はすごい !
- 21 - 30 男 興味深かった . 病理標本のうちどこが悪い部分か分かりにくいものがあった .
- 21 - 30 女 どうやってつくったのか!?! 不思議 .
- 21 - 30 女 正確な位置 , 形など分かってよかった .
- 41 - 50 女 最初は驚いたけれども , 現実を知らないでは , 本当の (真実) 健康のありがたみを知ることはないと思うのでよかったと思います . 献体してくださった方の勇気とか , 日々医療に取り組んでいる方々のことも少しでも分かり参考になりました .
- 11 - 20 女 あまり見たくなかった . 医者などはいいかもかもしれないが実際動いていたものだからどうせなら動物の方が気になった .
- 11 - 20 女 本物の人の身体があり , 少しこわかったが , 今までより身体になんか興味深くなった . こわかったが楽しくいろんなことが知れた .
- 11 - 20 女 はじめて人間の体の中の本物がみれた . めったに見れないのが見れてうれしい ! 体の中のことに少し興味深くなった .
- 0 - 10 男 べんきょうになった .
- 41 - 50 女 イメージと違っていて思ったより見やすかった .
- 21 - 30 女 すごい !
- 11 - 20 男 はじめて見た .
- 31 - 40 女 今までに見たことがなかったことがよく理解できるように説明をしてくださって良かったです . 自分したことなのに知らないことが多くて , 病気になるれば心配するのに...勉強になりました . 子ども達も興味深く見れました .
- 21 - 30 女 めったに目にするのがないので勉強になった . 一般の人が気軽に質問できるような人がいた方がよかったな . 色々聞いてみたかったが聞きづらかった . 少し残念 .
- 11 - 20 男 おどろいた
- 31 - 40 男 少し驚いた

- 41 - 50 女 色がついていればもっと具体的と思う。
- 31 - 40 女 自分の身体について詳しく知ることができて大変興味深かった。平面的に見る（本など）のでは分かりづらい点を実際に立体的に見ることができよかった。
- 31 - 40 男 少し抵抗があったことも事実ですが、科学的な見方が体験できてよかったと思います。
- 41 - 50 男 実物標本を見れる機会などめったにないので、非常に興味深かったです。
- 21 - 30 男 展示されているものを見たことがなかったので、とてもよい体験をさせていただくことができた。
- 51 - 60 女 献体していただいた方に心から感謝するとともに、実際の体のつくりがよくわかりとても勉強になった。
- 21 - 30 男 人体について無知だったが、今日で多少は自分の身体について興味を持つことができ、人体のすごさが分かったと思う。
- 41 - 50 女 子ども（小学生）には、難しい表現でした。大人用と子供用に分けてもらえるとよかったと思います。
- 51 - 60 女 驚いた。自分の身体を見ているよう
- 11 - 20 女 すごかった
- 21 - 30 男 以前から人体の展覧会があることを知っていて、大変興味を持っていた。身体は普段の生活では分からないことが多いので発見や驚きを持ってみた。
- 21 - 30 女 医療関係者でない実物の標本はなかなか見れないので、こういう機会をもっと増やしてもらえれば、多くの人が見れるのでよいと思います。
- 41 - 50 女 とても興味深く拝見しましたが、子どもには少し気持ち悪がっていましたが、実験など、とても楽しめたようです。献体された方のことを子ども達に教えたいと思います。
- 31 - 40 男 リアルで興味深かった。
- 21 - 30 女 もう少し本物の色に近ければなあと思った。
- 41 - 50 男 複雑な気持ちになった。でも不快ではない。
- 31 - 40 男 実際に自分の身体を見たことがないので興味深かった。しかし、本物の人体と言うことを考えると別の意味で複雑です。
- 31 - 40 やはり、リアルなので興味深く見ることができ、勉強になった。
- 21 - 30 女 実際見学でき、大変よかった。私の中でも興味深い分野なので、今後とも何かの機会があれば展示していただきたいと思う。
- 31 - 40 女 展示だけでなく、できれば解説などを加えてほしかった。今日のように来館者の質問に答えてくれるなど。
- 31 - 40 女 目がついているのは気持ち悪かったです。色々勉強になった... (?) かな。
- 31 - 40 女 リアルな標本で、献体された方のことを思うと、これから正しい理解がされるように、指導員が正しい導き方をするのが望ましい。
- 21 - 30 男 とても勉強になった。
- 11 - 20 女 すごかった。びっくりした。
- 11 - 20 女 すごかった！初めてなのでびっくり。
- 11 - 20 女 びっくりした。
- 11 - 20 男 今まで知らなかったことがたくさん分かったのでよかった。
- 11 - 20 女 すごいと思いました。人間って複雑だと思った。
- 11 - 20 女 こまかいところまで見れてよかったです。
- 31 - 40 女 精密な位置が詳しく分かった。ちょっとびっくりしたところもあった。
- 31 - 40 女 専門的知識が多少なりともある者にとって、すごく興味がありよくわかったが、全く知識のない親や子は、もう少し分かりやすい説明が必要だったと思う。
- 11 - 20 女 スライスしているのははじめて見てこわかった。
- 31 - 40 女 見る機会はないので、こういう機会に見るのはいいと思う。
- 31 - 40 女 まやかしではなく、本物を展示していたことに驚きましたが、大人の目から見ても人体に対する畏敬が感じられよかったと思います。本当に御協力してくださった方々に感謝し、準備された方に敬意を表します。

- 41 - 50 男 子どもがちょっとこわかったといていた。
- 21 - 30 女 献体者に感謝します。
- 21 - 30 女 もっと多くあるといい。説明がもっとあるといい。
- 31 - 40 女 実物を見ることで、心に残ると思う。人間の身体について興味がわき、知識が深まると思う。
- 21 - 30 女 人（自分）に置き換えて考えると、ああ、身体は大切にしなければ、と思いますし、はっきりと見えてよかったです。6歳の子どももしげしげと見ていました。
- 41 - 50 女 感動した。
- 31 - 40 男 実物を見る機会をもてるチャンスはないため有意義でした。
- 21 - 30 男 思っていたよりきれいだった。体の中がそのまま分かってとても興味深かった。同行者が多少気分が悪くなったので、希望者のみに見せる方法は、よかったと思う。こういう貴重な展示をまたしてください。
- 31 - 40 女 自分も大きな手術をしたので体の中のことが知りたかったので、よくわかってよかったです。
- 41 - 50 女 献体された方のことを思うと大変申し訳ないような気持ちになるけれど、多くの医療関係者の方々、特に学生には見てもらいたい。見る機会を多く持たせ、勉強のたびに確認できればよいと思う。
- 21 - 30 女 興味深かった。
- 41 - 50 女 リアルですごかった。
- 21 - 30 女 人体の内部の構造がとても理解できた。
- 21 - 30 女 実物が見れて貴重だった。
- 61 - 男 感動の一言。人体の神秘にふれた思い。
- 0 - 10 女 おもしろかった。よくわかった。
- 0 - 10 男 気持ち悪かった。
- 11 - 20 女 すぐくてとてもよかったと思った。
- 11 - 20 男 正確で興味深かった
- 51 - 60 女 人の尊厳を改めて考えさせられました。そして、このような企画を感謝いたします
- 41 - 50 女 生命のすばらしさを再実感
- 41 - 50 女 おどろいた